

会 議 録

1 会議名

令和4年度 第5回高土区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 自主的審議事項（公開）

・旧高土スポーツ広場（旧高土中学校跡地）の活用策について

① 地区アンケート結果報告

② 具体的な活用策の検討

3 開催日時

令和4年8月9日（火）午後6時30分から午後8時20分まで

4 開催場所

高土地区公民館 大会議室

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：青木正紘（会長）、上野秀平、玄蕃郁子、高橋清司（副会長）、田中利夫、塚田春枝、日向こずえ（副会長）、松山公昭（欠席4人）

・事務局：中部まちづくりセンター 小林センター長、藤井係長、山崎主事

8 発言の内容（要旨）

【山崎主事】

・会議の開会を宣言

・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【青木会長】

・挨拶

【山崎主事】

・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条1項の規定により、会長が議長を務め

ることを報告

【青木会長】

- ・会議録の確認者：玄蕃委員

次第2 議題「(1) 自主的審議事項」の「旧高士スポーツ広場（旧高士中学校跡地）の活用策について」の「① 地区アンケート結果報告」に入る。事務局より説明を求める。

【山崎主事】

- ・資料1-1～1-4に基づき報告

【青木会長】

今ほどの説明について質問を求める。

(発言なし)

以上で「① 地区アンケート結果報告」を終了する。

次に「② 具体的な活用策の検討」に入る。事務局より説明を求める。

【山崎主事】

- ・資料2に基づき説明

【小林センター長】

- ・補足説明

【青木会長】

資料を基に、具体的な活用策とその実現方法を検討する。意見を求める。

【松山委員】

これまでのアンケート結果を見ると、いわゆる広場として活用したいという思いが強い。「地区合同の夏祭りや塞ノ神」という意見も出ているが、夏の行事と冬の行事では、必要なインフラが当然違ってくると思う。

出していただいた方は、こういう行事を「やりたい」と思っているのか、「やってほしい」と思っているのか。

子どもたちは自分で「やりたい」のだと思うが、もしかしたら地域の人たちは「やってほしい」のかもしれない。細かい話だが、そこを詰めるといろいろなことが見えてくると思う。

【青木会長】

アンケートの答えだけではそこまでは分からないが、おそらく行事をやっていた

いのだと思う。グラウンドゴルフや各種行事など、様々な意見が出ているが、それらも含めて「多目的に利用できる広場」ということになるのだと思う。

【小林センター長】

松山委員から、何か「やりたい」のか、「やってほしい」のか、という2つの捉え方があると話があった。何か「やってほしい」という場合には、活動する団体が伴う。この自主的審議事項は、このようにソフト事業をやっていただくことが本筋なのである。

活動団体があって、そこに参加したいと思われるような活動を見つけてほしいと思っている。

最初に言ってしまうと、今日で全てを決めることは難しいと思っている。今日の会では、なるべく多くの意見を交わしていただいた中で、最終的には次回の協議会で意見が統一できればと思っている。

【青木会長】

上野委員から順に、意見を聞いていく。

【上野委員】

この検討シートを見て、一番よいと思ったのは、No.16の「多目的に利用できる広場」である。そうすると、いろいろな事業が展開できると思う。特に体育協会では、今回ノルディックウォークの活動を計画しているが、次にはゲートボールやグラウンドゴルフを行うこともできると思う。

【玄蕃委員】

今後これから先、展開していくに当たっては、活動団体を見極めながら、そこと連携していくことが必須である。私たちが中心になって何かをするということは難しいので、いろいろな団体と連携していかなければいけない。元気事業にしても、その工程を考えると、時間的にどうなんだろうといろいろ考えていた。

ただ、上野委員が言われるように、これまでの話し合いの中では、明確に決めるよりも、一つ一つ始めていき、実績を積みながらというのが前に出てきていたと思う。

まずは子どもたちの参加ということで、少しやってみると、いろいろな考え方が出てくると思う。

それが今年のうちにとまとまるかは分からないが、地道に出来る所から繋げていって、やがて大きなものになることを期待する。最初から大きいことを狙っても難しいと思

う。

【青木会長】

どの団体にやっていただけるのかという件については、前回の会議で、横川振興協議会長から、「一緒にやっ払いこう」と表明いただいた。高士の皆さんであれば、多分上手くいくだろうと、大船に乗ったような感じがしている。

【田中委員】

検討シートの中で、色の付いている活用策はそれぞれあるが、全部同じ整備でいけると思ふ。広場さえ造ってしまえば多様に使える。一番簡単に芝生として整備して、一部土の部分があれば、何でも使えるのではないかと思ふ。

【塚田委員】

会長がおっしゃったように、振興協議会の全面的なバックアップがあるとすれば大変心強く思ふ、活動団体との関係をどうやって築いていくかが一番大きな問題だと思ふ。

市にいろいろなインフラ整備をお願いするにしても、活発に活動して実績を作るにはどうやって活動するのか。どうやって活動を盛んにして、インフラ整備まで進めていけるのか、先を考え過ぎかもしれないが、大変なことだと思っている。

【青木会長】

確かにそうである。先日、振興協議会長が「一緒にやりましょう」と言ってくれたが、その先は婦人会や老人会、体育協会など、それぞれの部門での具体的な話し合いが必要になる。ただ、高士のことなので、多分うまくいくだろうと私は考えている。

【松山委員】

基本的なことだが、高士地区振興協議会はどのような組織体制なのか。予算や他の団体との絡みをお聞きしたい。

【青木会長】

振興協議会は、町内会長会を含む様々な団体から組織されており、その中で予算等を決めている。

【松山委員】

町内会からお金が出ているのか。

【青木会長】

基本的には、町内会から、春と秋に集めさせていただいている。

また、各団体には助成金を出している。

【松山委員】

今の流れでは、振興協議会にお願いする形になると思う。ただし、完全に任せてしまっ、こっちは関係ないというのも違うと思う。

【高橋副会長】

各年間行事の中では、振興協議会が中心になるものもあれば、各団体が中心になっているものもある。松山委員が言われるように、振興協議会にお願いするといっても、やはり地域協議会委員もその中に入って一緒に活動することがよいと思った。

【松山委員】

皆で議論して、共通理解を得られればよいと思う。

振興協議会にお願いする形になると、申し訳ないような気がする。

【青木会長】

逆に私は、振興協議会にお願いするしかないと思っている。

新たな団体を作るようなことは、とても無理である。

【高橋副会長】

たとえば、他区でも実施されているように、地域協議会の何名かが、振興協議会の行事をやるときに、そこに一緒に入って計画できるような体制にしてはどうか。そうすれば、情報共有もできて上手くいくと思う。

先ほどから多くの意見が出されているように、私もやはり多目的広場としての活用が一番よいと思う。

今回のアンケート結果も踏まえて、具体的な計画を立てなければならないが、事務局から説明をお願いしたいものがある。近頃、新聞等で「地域独自の予算」という制度が報道されている。その辺の情報は、我々地域協議会としても、共有していかなければならないと思う。

当然、今まで地域活動支援事業を活用していた団体は、来年度からどうなるのか、本当に心配している。

それと、スポーツ広場の活用については、やはりソフト面からハード面をうまく改善していきたいというところがある。報道を見ると、9月末までに提案しなければいけないとのことで、もう時間がない。

それを踏まえると、アンケートの中にも出ているが、夏祭りがよいと思う。

夏祭りは振興協議会が中心になって行っている。まずは実施してみて、その中でいろんな問題が出てくれば、それはまた予算付けをして、新しいものにしていくというような形で、一つ一つの事業をやりながら、スポーツ広場を育てていければと思う。

【青木会長】

様々な発言をいただき、大体まとまったような気がする。

多目的に利用できる広場として、グランドゴルフができたり、子どもたちが遊べたりする、芝生がある安全な広場としてまとまったと思う。

日向副会長から意見を求める。

【日向副会長】

私も新聞報道を読んで、とにかく早めに意見をまとめて、ぜひ9月末までに応募したいと思った。多目的に利用できる広場に、地域の行事等を結びつけて、ぜひ提案したいと強く思っている。

【青木会長】

両副会長から話があった新聞報道の内容について、差し支えない範囲で事務局から説明願いたい。

【小林センター長】

- ・「(仮称) 地域独自の予算」の概要(案)の概要説明

【松山委員】

現行の地域活動支援事業がこの形になるということか。

これまで採択してきた団体の事業は、地域独自の予算に当てはまるのか。

【小林センター長】

今回の地域独自の予算では、対象になる取組が設定されているため、それに当てはまるかどうかである。

【松山委員】

理解した。

今ほどの説明からすると、あの広場で雪祭りをすることに予算を付ける場合、そこにインフラ整備が含まれていても却下はされないと思ったがどうか。

【小林センター長】

今は個別の判断はできない。

【松山委員】

今話を聞いていると、「あの広場でこんな事業をやるので、そのために予算を立ててください」と言われているのだと思う。それをこの9月までにまとめるには非常に大変なことなので、来年に見送ることにしてもよいと思う。皆さんの意見を聞きたい。

【玄蕃委員】

雪まつりの団体は、自分たちでやりたいことをやっている。そうすると、来年度以降も自分たち独自の計画で個別に提案が上がっていくと思う。

それを私たちの計画と結びつけたいとなれば、今度は地域協議会が、その団体にアクションをかけて、自分たちの構想に参加しませんか、スポーツ広場でやりませんか、ということになるのだと思う。

【松山委員】

地域活動支援事業と自主的審議は別のものだったと思うが違うのか。

【青木会長】

私が考えたこととしては、例えば、地区の夏祭りがある。地区の主要行事である。

今までは小学校でやってきたが、スポーツ広場でやるとなると、そのためには水道や電気等が必要になる。目的があって、その実現に必要な整備という形で提案できると思う。

先ほど松山委員が、雪まつりと言っていたが、雪まつりの実行委員会は、振興協議会とは離れた組織でやっているため、ここに組み込むことは少し難しいかもしれない。

私が思ったことは、とりあえずは、今までの活動の継続として提案してみて、通るかどうかは分からないが、提案してみることはできるかと思っている。

【松山委員】

私が言いたいことは、自主的審議の経費はどこで見てもらえるのかということである。

【小林センター長】

まず、あの場所で雪まつりをやることは本当に可能なのか。

【松山委員】

夏祭りでもよい。

【小林センター長】

夏祭りで考えてみると、夏祭りというソフト事業を行うに当たって、落下防止の柵を作るとか、必要と認められれば、ソフト事業として通るのではないかという話であ

る。

【松山委員】

それを9月末までにまとめるということか。

【小林センター長】

もし、令和5年度に事業実施したいとなれば、9月末までに提案していただきたい。ただ、皆さんの議論が先なので、令和5年度にこだわらず、1年延ばしてもよい。

【松山委員】

「多目的に使う広場」ではまずいのか。

【小林センター長】

何か活動するということが大前提にあって、それに必要な整備はおそらく認められると思う。

だが、ただ単に「多目的広場を作る」というだけでは、それはハード事業になる。建物を建てるのと変わらない。

【青木会長】

例えば、独自予算の例示にも挙がっているように、「ふるさと高士まつり」はよい方法である。

この際、高士まつりの会場をスポーツ広場に変えることで、高士のために、みんなのために、みんなが集まれる広場ができる。だからあそこでやりたいというのが前提になって、そのためにはインフラが必要だというふうに提案していけば通るのではないかと思っている。

【松山委員】

私が疑問に思うのは、例えばドッグランにするとしても、ゲートボール場にするとしても、それぞれ必要な整備は異なってくる。

【青木会長】

それはこれからの提案の出し方だが、大きな目的として、多目的広場を作るんだと、とりあえずは祭りをやりたいと、それにはこれが必要だというような提案をしていけば、理解してもらえらると思う。

そして、それが支援事業の今までの計画の中でできるのか、新たに元気事業として申請しなければいけないのかについては、これから事務局から調整してもらおうことである。

【玄蕃委員】

地域協議会の一番の根本は、地域の皆様の力を借りて、どうやってこの地域の活力を生み出していくか、どうやって住みやすい町にしていくかということである。ここに一番大事なポイントがある。

そこで今、放っておいたら衰退してしまうグラウンドを、何とか活用しようという話になっているのである。

いきなり大きなハード面の話が出てきているが、私はやはり時間をかけてでも、地域の関係団体との話し合いが重要になると思う。人づくりというか、どの団体と一緒にになったらどんなことができるかというところから始まって、皆の理解をいただいて始めていくことが大事だし、すでに体育協会は活動を始めてくれているわけである。そういう活動を少しずつやっていくと、見えてくるものがあると思う。

これまで関連してきたいろんな団体と力を合わせるというか、そこが今試されているのだと思う。だから、急ぎ過ぎないほうがよいと私は思った。

【上野委員】

来年度の予算を獲得するということは、良いきっかけだと思う。

多目的広場で何をするかといったときには、高士まつりでもよいし、何かくっついてくると思う。それはこれから話し合っていくべきことであって、9月までにどうしてもそういうことをやらなければならないのかというと、そうではないと思う。

今、玄蕃委員が言われたように、そのきっかけづくりのために、各種団体とこれからどんなことができるか話し合っていけば、来年度は実現できなくても、次年度、令和6年度にはできるのではないかと思う。

従って、9月末ということを入念の中に入れていろいろ考えるのであって、まずはきっかけづくりをしてあげればよいのだと思う。

【青木会長】

今日、どこまでやれるかについては、なかなか難しいと思うので、また正副会長での打ち合わせの中で整理していきたい。

事務局から何かあるか。

【小林センター長】

本日の協議は、検討シート2の中からどれを選ぶかということから始まった。

令和5年度予算に反映させるのか、それともじっくり話し合うのかという時間的な

話も出てきたが、事務局はいずれにしても、決まった時間に間に合わせるように善処するので、皆さんの意見を合わせていただいて、この地区にとって一番よい選択をしていただければと思っている。

【高橋副会長】

どうしても私の中では、9月末か10月初めまでに、一つでも何か提案したいと思っている。

それで、先ほどから話が出ている、ふるさと高士まつりである。コロナ禍で中止が続いているが、私個人としては、来年度ぜひやってほしいという願望がある。

そうした場合には、まず振興協議会と話をして、どんな考えがあるのか、その辺を早急に詰めて、やりたいということであれば、早急に話をして提案をしていただきたいと思っている。

【小林センター長】

一つ、事例として紹介する。

三郷区地域協議会では、地区公民館の建て替えについて自主的審議で話し合い、その結果を意見書という形で市長に提出した。

ただ、その後も継続して、建て替えられた場合にどんな使い方をしたいかということで話し合いを続けている。

要は、一つ決まりをつけたから終わり、ではないということである。

一つは、できるところまで今年度やってみて、地域独自予算でも意見書でもよいが、何か提案して、今後、来年度以降に継続審議をしても、それは構わない。それとも、落ち着いて審議していくやり方もあると思う。そこは、やはり皆さんの考え方である。

【青木会長】

本日は多くの意見を出していただいたため、正副会長協議の中で、今後の進め方の案をまとめ、次回提案したいと思う。

【松山委員】

高橋副会長から提案があったように、来年度ふるさと高士まつりを行ってほしいということを、この会の総意としてはどうか。

【青木会長】

高橋副会長が先ほど提案された、来年度のふるさと高士まつりを、スポーツ広場で行ってほしいという希望を、今日のまとめとしたいと思うが、どうか。

(よしの声)

本日は以上でよいか。

【小林センター長】

それでは、次回までに振興協議会との話し合いの場を持ち、先方の考えを確認したいと思う。その結果を次回報告させていただく。

【上野委員】

来年度、高士小学校の150周年記念行事がある。それをよく考えて話を進めていただきたい。

【青木会長】

以上で次第2 議題「(1) 自主的審議事項」を終了する。

次に次第3 その他の「(1) 次回開催日の確認等」に入る。

— 日程調整 —

- ・ 次回の協議会：9月6日（火） 午後6時30分から 高士地区公民館 大会議室
- ・ 内容：自主的審議事項
その他、何かあるか。

【日向副会長】

- ・ 閉会の挨拶

【青木会長】

- ・ 会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。